

普段の生活の中に
幸せを見つけよう、と目を向けると
心満たされていることに気づくんです

DESIGN
my
own LIFE



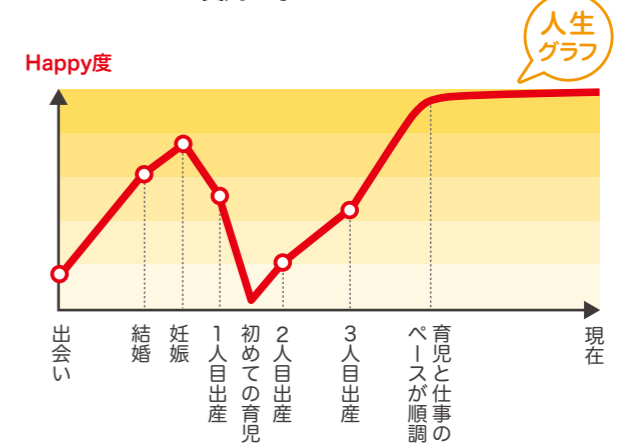
多田 真一郎さん 有紀子さん
楓くん(6歳) 椿ちゃん(4歳) 桃花ちゃん(3歳)

プロフィール
結婚8年目。会社員から自営業に転身した真一郎さんと、障がい者の介護職を経て保険外交員になった有紀子さんは、同い年の30歳。誕生日、ハロウィン、クリスマス、お花見などのイベントを3人のお子さんと楽しむファミリーです。



我が家のライフプラン

学費がたくさん必要になったら仕事とは別にバイトして調達すればいいかと楽観的です。長男が中学校に上がったころから真剣に考えます！



尊敬できるところがある人と結婚したらいい

真一郎 僕、結婚して「よかったな」と思っています。妻に感謝しています。

有紀子 普段の生活に幸せを見つけようとすると、満たされている自分に気づくんです。結婚して「いいな」と思うところですね。

真一郎 自分ができないことを相手がしてくれることへ感謝する。お互いに。それが一番大事なかな…。

有紀子 尊敬できるところがある人と結婚したらいいと思います。夫はいろいろな視点を持った人で、私はそこを尊敬しています。こうして欲しい

という要望があるときは話し合う。言わずに察してもらいたい…はダメですね。問題があっても、乗り越えたときにより強い絆になるので。



その時、その時を楽しめるようにイベントごとを大切にしている

真一郎 我が家はイベントごとを大切にしています。子どもの誕生日とかハロウィンとか、クリスマスとかね…。

有紀子 長い目で見ることも大事だけど、一瞬一瞬の積み重ねだから、「今」を大事にしたいんですよね。

真一郎 僕の親は多忙だったので、自分はわが子となるべく一緒にいたいなあという思いがあるんです。

有紀子 「家族の時間」を持てるのは「今」しかないんだろうな…と感じていて、だから旅行とかイベントを積極的にしようと思っています。

真一郎 子どもができれば、生活は子どもを中心に考えないといけないと思うんです。大人は「個人の世界」が中心ですが、子どもの世界は「家族の世界」。お父さん、お母さん、きょうだいと過ごす時間が中心になるので、きちんと養わないといけないんじゃないかな。

障がい児でも育てる、養子でも育てる

真一郎 初めて妊娠がわかったとき、僕は正直、嬉しかったです。

有紀子 私は「こうなった時はどうするか」を考えました。‘仕事との兼ね合い’や‘家族や自分が病気になったらどうするか’‘子どもにもし障がいがあったらどう育てるか’ということも調べたり、考えたりしました。仕事で障がいのある人と接していたので、さまざまな支援制度があることも知っていました。ですから、授かったなら必ず産もうと決めていました。

真一郎 僕は、生まれた子どもはもちろん育てるし、仮に子どもを授からなかったら、養子ももらってでも妻と共に育てようと思っていました。

有紀子 え？ それ、初めて聞いた！

真一郎 ある人に「子どもができれば、自分がどれだけ親に愛されてきたかがわかるぞ」と言われたことがあって…。自分が成長するためにも子育てって大事なや、というのが頭の隅にありました。今、その通りやなあと思うんです。

こぼれ話

出会い 高校を卒業してすぐに社会人になったので、今思えば、友人の中でも大人びていました。夫とは 友だち同士のグループで知り合いました。「多くの人を笑顔にしたい」という夢を大真面目に語る私の話を、夫だけが驚かずに聞いてくれて、同意してくれたことが、付き合いきっかけでした。(有紀子)

結婚 私の母親が21歳で出産していたので、自分も20歳過ぎたら結婚して出産して…と思い描いていました。付き合い始めてからはお互いの実家を行き来して、1年半くらいでプロポーズされました。(有紀子)

夫婦の時間 僕たち夫婦は価値観が似ているので、何か物事を決めるときに、大事だと思うことが同じなんです。今は、2人だけの時間は少なくなりましたが、結婚記念日など特別な日には、子どもたちを祖父母に預けて、2人で食事に行っています。(真一郎)